

2月定例会市会 | 普通予算特別委員会 | 市長総括質疑 | 3月10日

くらた共子議員 |

●今こそ、住宅リフォーム助成制度の創設を

○市民の暮らしの実感では景気回復の兆しは見えない。「仕事がない」という悲痛な声だ。京都府与謝野町では、住宅リフォーム助成制度を、初年度7千万円、次年度1億円と拡大。限度額20万円の住宅リフォーム助成制度を継続している。補助金の1.4～1.6倍の経済波及効果を生んでいる。建設関連業者は「この不況に信じられないくらい注文が入る。お陰で廃業しなくて済み、助かった」と言っている。局別質疑でも「経済効果はある」と認めている。あとは市長の決断にかかっている。どうか。

(答弁→由木副市長) 一定の経済効果はある。厳しい財政状況を勘案しながら、どのような政策の優先順位をつけて行うかということだ。事業の公益性を考慮し、重要度の高いものから優先順位をつけて助成をおこなっている。これに照らせば、一般のリフォームは個人の資産形成につながるものであり、広げることは困難。

○公益性、優先性というが、より柔軟で即効性のある、しかも再投資に生きる方策が大事。わが党議員の国会質問に対し、首相は「自治体が社会資本整備総合交付金を活用することができる」と答弁したことについて、副市長は本会議で「半分以上は市の負担なのでできない」と、財政力とのかねあいできないと答弁。疲弊した地域経済を再生させてこそ、担税力を高めることにつながる。打った予算が生き、即効性がある。決断すべき。

○仕事がなく、借りたお金を返すこともできず追いつめられて自ら命を絶つ市民の苦しみに心を寄せるべき。10人から12人の下職を使い仕事をしておられる建設業者に聞くと「通常の手間賃は1万8千円から2万円円だが、大阪から8千円の手間賃で仕事を取りにくる」とのこと。ペンキ屋さんの話では「彦根まで仕事に出かけたが15万円の仕事のうち4万円が交通費に消えた」とのことだ。こういう実態をみるべき。建設業界は新築が減り、リフォームにシフトしているというが、営業力で勝る大手が押さえている。地場産業の衰退と大手スーパーの出店で商店街が疲弊した結果、地場の仕事が消えた。ある建設業者婦人は「仲間の自殺に苦しんだ。仕事さえあれば死なずに済んだ」と語った。市長はこの悲痛な市民の声を受け止めるべきだがどうか。

(答弁→由木副市長) 地元建設業の苦しい実態は聞いているが、一般のリフォームにまで税金を使うことはできない。本市の持ち家率は5割、全国平均は6割で、本市は貸し家に住んでいる人が多い。年収も貸家に住んでいる人は半分以上が300万円以下。持ち家の方は300万円以下は4分の1だ。税金が資産を形成することに使われることになる。公益性という問題が生じる。

○硬直した答弁。住宅リフォーム助成制度は波及効果がある。ここに有益性がある。全体的な経済の活性化が必要であり、資産価値を高めるなど狭い範疇で行われているものでは

ない。制度の意義を理解していない答弁。指摘しておく。

●緊急経済融資制度の拡充、固定費補助の実現を

○国の緊急保証制度の打ち切りに替り、これを補う融資制度が新設することは評価したい。しかし、国の制度と比較し、保証率は100%が80%に、利率は1.8%から2.1%となる。利用のし易さからみると使いにくい。市は金融機関に貸し渋りが起こらないように求めるとしているが、徹底を求める。

(答弁→細見副市長) 3月31日で元のセーフティーネット保証に戻ってしまうので、残る34業種を対象に新設した。借り換え、新規資金と一本化ができるので使いかたが良いいのではないか。中小企業支援は金融支援だけではない。技術支援、人材支援、情報支援を含めて全面的にかかわっていく。

○借り換えができるなどは大きなメリット。本来国がやるべきこと。ひきつづき、保証制度の継続を求めるべき。

○総合的な中小企業支援という点では、固定費の補助が求められる。検討すべき。わが党の本会議質問に対し、市長は「積極的な事業展開を図る意欲的な中小企業に対して助成の拡充を図るが、固定費の補助はしない」と答弁。中小企業が意欲的になれるよう智恵を絞るのが行政の役割。市長にこそ積極的な判断が求められている。京都府もリース料の補助をはじめ。京都市こそ、融資と合わせて固定費の補助をやるべき。

(答弁→細見副市長) 利子や保証料は本来、本人が経済行為として負担すべきもの。本市が補てんすることは市民理解が得られない。損失補てんは好ましくない。

○中小企業の実態を見るべき。努力している中小企業に接近をはかるのが行政の役割。智恵を発揮すべき。わが党は、中小企業振興基本条例制定にむけて大綱案を発表した。各界の忌憚のない意見を集めよりよいものをつくっていくべき。求めておく。

┌──────────┐